

(1) 平成28年度 教職員による自己評価 及び 学校関係者評価

静岡雙葉高等学校・中学校

評価項目		自己評価	学校関係者評価	
1	宗教教育の充実・精神性の涵養 ①宗教の授業、宗教行事、聖堂での朝の祈り、朝礼時に聖歌を歌うことを大切にする。 ②精神性を育むために、学年毎の1年間の経営計画に則って、多面的に活動する。 【実践と自己評価】①予定していた各学年の宗教行事は、全て計画通り実施され、成果を上げている。 ②学年毎の経営計画にも、精神性の涵養を目指した具体的な取組みが取り入れられ、実施された。 【学校関係者評価を受けて】カトリック校として、今後も、生徒が人生を歩んでいく上での精神的な支え、柱を育むことができるよう、全教員が一致して様々な取組みを続けていきたい。	A	A	雙葉学園での6年間の宗教教育を通して、生徒1人ひとりが自分の生き方を見つめ、心を育てていることは、大変評価できる。今後も神父様方のご指導、ご協力も受けながら、本校らしい取組みを続けて欲しい。
	学習指導の充実・学力の向上 ①学年毎の教育計画、各教科の実践計画に基づき、計画的に教科教育を実施する。 ②基礎・基本の定着、授業中心の学習体制の確立、補習の充実、勉強合宿等の実施により、学力の向上を図る。 ③教員1人ひとりがより良い授業を行うため、研修への参加、研究授業を実施するなど、具体的な取組みを図る。 ④ICT機器を使つての主体的学習やアクティブラーニングを取入れた授業展開について研究し、実践する。 ⑤知的好奇心を高めるため、また視野を広げるため、海外研修、英語検定試験等の各種検定、大学が企画するセミナー、公開講座への積極的参加を促す。 【実践と自己評価】①計画に基づき、成長時期に応じての学習指導が実施された。 ②中学校では、試験前の朝、放課後の自習への主体的な取組も定着し、学力向上の成果をあげている。高校では、試験分析シートの活用によって、目的設定と振り返りを行なう等、苦手科目の克服を行った。 ③④教員用、生徒用のiPadを用い、各教科で授業での活用方法の研究を行った。iPadを使用した授業の公開が頻繁になされ、今後の有効な活用に向けて、実践的な検討を進めることができた。 ⑤各種検定、セミナーなどへの参加の取組みは、生徒同士の触発により参加人数が増加するなど、成果が見られた。 【学校関係者評価を受けて】国が推進する教育改革の中でも、今後、特に必要とされるのは、主体的・能動的な学習姿勢の育成である。ICT機器の使用も、それを念頭において、研究を進めたい。	A		A
3	自律性や社会性及び公共心の育成(生徒指導) ①基本的生活習慣の確立に努める。 ②公共心や社会的規範意識の育成を図るとともに、インターネットの功罪の学習、活用について学ぶ。 ③社会性、自治能力、自律心の育成を図るため、生徒会活動、委員会活動、学級・学年活動を充実させる。 ④奉仕の心を養い、精神性を培うため、福祉施設訪問、ボランティア活動、各種献金活動を充実させる。 【実践と自己評価】①家庭との連絡を密にして取り組んでいる。学年毎の様々な取組みによる自律的な時間管理の指導が学力面での向上に結びついている。 ②携帯やスマホに関しては、中学校では学年の約束事を決め、LHR(ロングホームルーム)や保護者会で情報提供を行い、家庭と連携を図りながら指導を継続している。多くの生徒がけじめのある使用方法を身につけてきている。 ③④中1では、全校に呼びかけて、フィリピンでの台風の被災者支援のためTシャツを送る活動を、中2では年2回の学年バザーを開催し、国連の難民支援への献金を行った。あしなが学生募金活動にも多くの生徒が積極的に参加した。高校生のクリスマス訪問(クリスマスの時期の福祉施設訪問)参加者が増加し、意識の向上がみられた。 【学校関係者評価を受けて】今後も、できる限り家庭の協力を得ながら、生徒の成長を手助けしていきたい。様々な支援活動は、次年度も生徒たちの発案を大切にしながら、積極的に取り組ませたい。	A	A	基本的生活習慣の確立や、自律性の育成は、家庭教育に依るところも多い。社会的規範意識の確立については、学校での一層の取組みを期待する。携帯電話、スマートフォン、インターネットなどの正しい使い方は、最新の情報をもとに啓発活動を続けて欲しい。クリスマス訪問やあしなが学生募金だけでなく、学年毎に生徒中心の様々な支援活動が企画、実施され、生徒たちの心を育てることに役立っていると感じる。
	たくましく未来を切り開く力の育成(進路指導) ①中2、中3の職業体験学習の充実、著名人や大学教授・先輩等による講演実施、校外のオープンセミナー、大学見学、海外研修や様々な体験活動等への生徒の積極的参加を促す。 ②大学入試の最新情報を常に把握し、的確な進路情報を生徒・保護者に提供する。 【実践と自己評価】①中2の職場体験は、全85箇所の保育園、幼稚園で11月に実施。中3の職業体験は病院、図書館など7~8月にかけて実施。高1・2は卒業生の講演会、進学講演会、大学出張講義を実施。さらに、夢ナビ動画(大学出張講義の動画番組)視聴によって大学進学への意識を向上させた。夏の海外研修へは、高1イギリス研修に17名、中3でカナダ16名、米国2名、オーストラリア・韓国に各1名が参加。また中3で3名が、初めて3カ月のニュージーランドホーム留学に参加した。春には中2の10名がシンガポール姉妹校を訪問した。 ②高1は生徒を対象に5月にキャリア講演会を実施。また高2保護者を対象に11月に予備校の講師による進学講演会を実施した。 【学校関係者評価を受けて】大学の入試方法の変化については、今後も、常に最新の情報を把握、吟味し、生徒・保護者に提供するとともに、授業や進路指導のプログラムに活かしていきたい。	A		A
5	生命の安全確保 ①大規模災害に備え、総合的防災マニュアルを見直ししていく。 ②災害時、学校への宿泊を想定した防災備品の充実を図る。 ③年度計画に基づき、校内施設、設備の点検、特に防火設備、防災設備の点検を確実に挙る。 ④生徒が、自分の命を自分で守れるよう、防災訓練等をより実践的なものにして、地震・火災への防災意識と危機対応能力を高める。 【実践と自己評価】①昨年度末までに、防災マニュアルが一冊にまとめたが、更に良いものにするよう、見直しと修正を継続している。 ②夏期休業中に、担当教員3名が、防災備品を使用した宿泊訓練を、普通教室を使って実施した。 ③計画どおり点検を実施した。 ④年間の防災訓練に加え、11月に生徒に予告なしの地震避難訓練を実施し、防災の意識を高めた。 【学校関係者評価を受けて】防災マニュアルの中から、教員の役割をまとめた小冊子は、次年度中に作成し、全教員に配布徹底したい。防災訓練は、より実践的なものとなるよう更に工夫していきたい。	B	A	耐震性の高い校舎、防災備品の充実など、生徒が安心して生活できる体制は十分整っており評価できる。防災マニュアルについては、完成している総合的マニュアルの中から、非常時の教員の役割等の要点をまとめたものも準備し、全教員に配布、衆知しておくことが望ましい。
	(学校側のまとめ) 各学年の宗教行事や、精神面、学習面の成長を図るための学年経営計画の取組みが軌道に乗り、着実に成果があがっていると実感できる。2年後からいよいよ実施となる「コース制」については、外部からの期待も大きい。今までの積み重ねを基に、各コースにおける具体的な指導内容についての検討が進んでいる。	(学校関係者評価委員会のまとめ) 昨年度に引き続いて、評価項目の整理、記述の簡明化が行われ、部外者の理解も得られやすくなったと思われる。今後も改善の工夫をお願いしたい。学校評価を通して、教職員の意識が高まり、雙葉学園として質の高い教育実践がなされていることを評価したい。今後もさらなる努力を重ねて、より良い人材を社会に送り出していきたい。		

自己評価 : A 良くできた B できている C 改善を要する D より努力が必要

学校関係者評価 : A 大変評価できる B 評価できる C 改善を要する D 評価できない